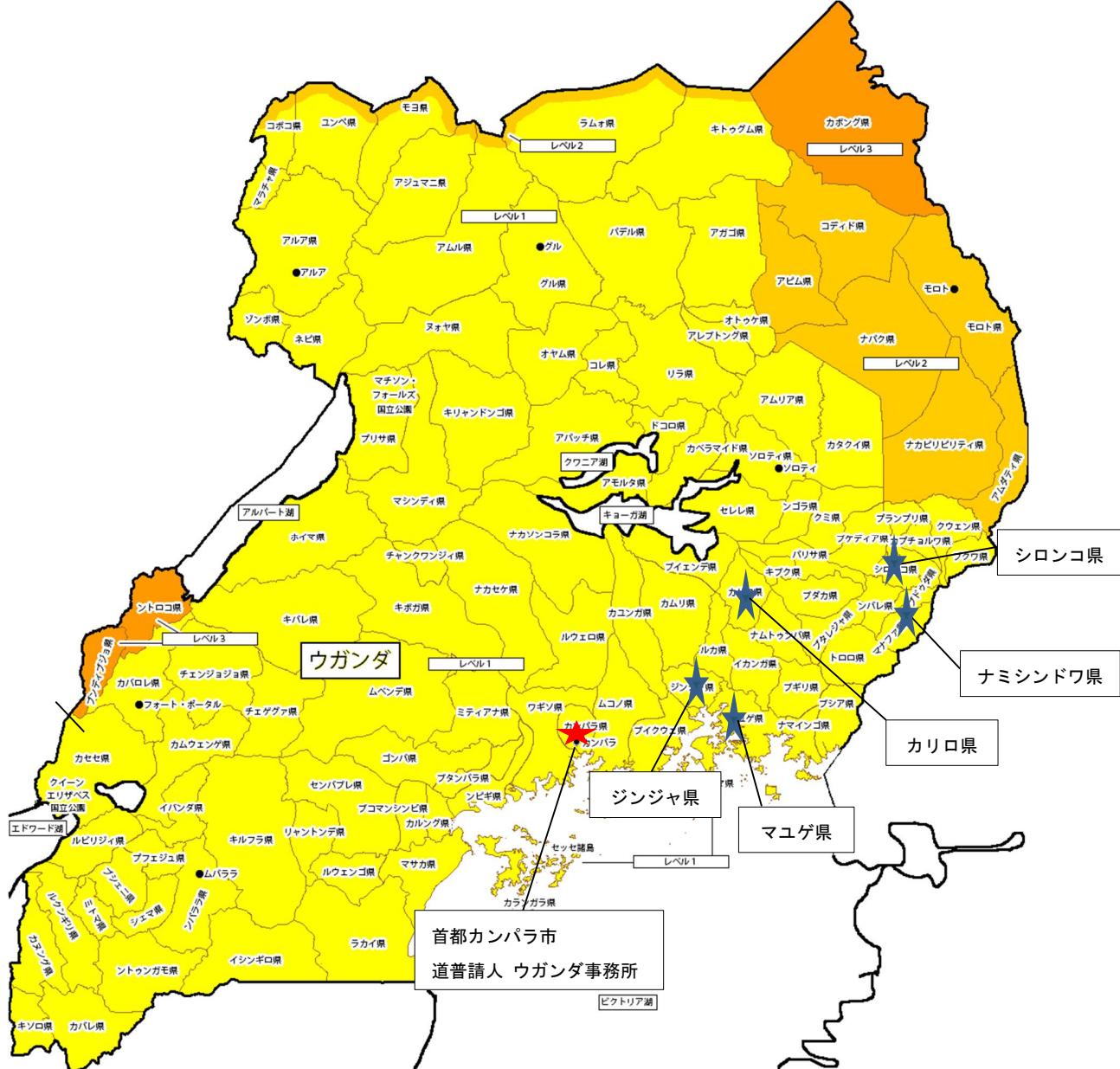


補足資料1 事業実施予定地 地図

表1 事業予定県と事業地へのアクセス状況



県名	首都カンパラからの距離 (車両での所要時間)
ジンジャ県 Jinja District	80km (2 時間)
マユゲ県 Mayuge District	120km (3 時間)
カリロ県 Kaliro District	150km (3 時間 30 分)
シロンコ県 Sironko District	250km (5 時間)
ナミシンドワ県 Namisindwa District	250km (5 時間 30 分)

補足資料2 本NPOエンジニアが事前に視察した各県の道路状況（2020年6月末時点）。
※施工候補地として各県のディストリクト・エンジニアおよび地区長らの案内の下、コミュニティの主要道路の中から土のう工法に適した箇所を視察した。

●視察した道路に共通する特徴として、下記が挙げられる。

- 1) コミュニティ住民にとって社会的・経済的重要アクセス道路である。
- 2) 幅員が狭い。既存のカルバート（排水溝）が劣化、または破損で機能していない。
- 3) 深い轍が見られ、通行が非常に困難で、車両が立ち往生する。
- 4) 側溝の未整備により泥濘化または洪水が起き、通行不能になるまたは断絶される。
- 5) 県または行政区から予算が付かず、長期間放置され、かつ改善される兆しがない。



ジンジャ県1（ブタガヤ副郡）



ジンジャ県2（ブウェンゲ副郡）



マユゲ県1（ンタンビ副郡）



マユゲ県2（ムプングウェ副郡）



カリロ県 1 (ナムゴンゴ副郡)



カリロ県 2 (ガドウミレ副郡)



シロンコ県 1 (ブナブワンダヤ副郡)



シロンコ県 2 (ナルサラ副郡)



ナミシンドワ県 1 (ブナンバレ副郡)



ナミシンドワ県 2 (ナビティキ副郡)



道路の断絶で途方に暮れる住民（ジンジャ県）



土壤流出が頻繁する斜面農地（ナミシンドワ県）

補足資料 3 活動 2：若者グループおよび県政府道路維持管理組に対する道直し訓練と環境保全活動の詳細

活動 2-1 座学セッション（2 日間）

選定された若者グループ（5 グループ×25 名）および県政府道路維持管理組（5 組×25 名）に対し、2 日間の座学研修を実施する（各県 1箇所に 50 名を集め実施）。

【事前準備】

- 研修場所および日時の選定（5 箇所）、グループに伝達
- カリキュラム内容の作成
- 県政府関係者や地区のハイレベルの招待、研修内容の共有
- 終了後に行う簡易テストの作成

【座学研修内容】

- 土のう工法理論
- その他道路維持管理手法理論
- 排水整備等の勉強会
- CBO 登録や会社起業、公共事業参画への手続きなど
- 効率的な集団活動を行うための研修
- 作業中の安全対策や供給された資機材の管理に関する講座

※ 座学研修終了後に研修内容に関する簡易テストを実施する。本 NPO エンジニアが採点し、理解度の低い訓練生への実地フォローを行う。

活動 2-2 道直し訓練（8 日間）

座学研修を終了した若者グループ及び道路維持管理組は「土のう」および現地資材を用いた 8 日間の道路整備実地訓練を行う。以下に土のう工法を用いた基本デザインを示す。

(補修前の道路)



1) 路面の確認・計測、沿線の草刈



2) 土のう袋にマラム（礫質土）を詰める



3) 土のう敷設



4) 土のう締固め：最低2段設置



5) 土のうの隙間に礫質土を敷詰める



6) 土のうの表面を礫質土で覆い締固める



(補修後の道路)



※「土のう工法」の技術移転と同時に、以下の作業も同時に実施する。

- 沿線の草刈や掘削による道路幅員の拡張
- 排水路の整備（排水の通り道を確保し、例年みられる水たまりができないようにする。適切な排水設備を整備することにより雨季の泥沼化が避けられる）。
- 各選定箇所の必要性や雨期後の道路のダメージ具合に応じ、礫質土にセメントを混合し補強材として利用する。施工箇所の選定後に本NPOエンジニアが各箇所の施工計画を作成する。東部5県のディストリクト・エンジニア（県における道路行政最高位）から意見を収集し、適宜修正した上で、合意に至る。
- 本NPOエンジニアが補修後の定期的道路維持管理（メンテナンス）の方法（各箇所における必要頻度、適した資材、手法など）につき講習を行う。